



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

4月号—No.323
2022.3.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【ネーブルスイエロー(Naples yellow)】ややオレンジがかった黄色。

ネーブルスとは英語でイタリアの都市ナポリのこと。ナポリ近くのヴェスヴィオ火山で採取された天然の土性顔料が由来で、ナポリの黄色として古くから知られていた。レアメタルのアンチモンが主成分で、別名アンチモンイエロー。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

ステージラボ豊橋セッション報告

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ大分セッション参加者募集 / 令和元・3年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」長野セッション報告 / 令和3年度「公共ホール邦楽活性化事業」報告 / 令和3年度「リージョナルシアター事業」報告 / 令和3年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」報告

今月の情報..... 7

地域通信 / オンラインを活用した取り組み / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

愛知県豊橋市 穂の国とよはし芸術劇場PLAT
市民と創造する演劇『階層』～チェルフィッチュの〈映像演劇〉の手法による～

2年ぶりのリアル開催が実現

ステージラボ 豊橋セッション 報告

2022年2月15日～18日



昨年度はオンライン開催となったステージラボですが、令和3年度は感染症対策を取りながら、2年ぶりのリアル開催が実現しました。コースはホール入門、自主事業、公立ホール・劇場マネージャーの3コースで、会場となったのは、2013年に開館した穂の国とよはし芸術劇場PLATです。PLATはJR豊橋駅からペDESTリアンデッキで繋がる中心市街地の施設です。施設の名前にもなっている穂の国(豊橋市、豊川市など8市町村に及ぶ東三河一帯を指す古くからの名称)の舞台芸術の拠点として整備されました。主ホール(778席)、アートスペース(可動式266席)、創造活動室など全館を使って研修が行われ、対面ならではの交流が実現しました。

●制作者と制作者の視点～自主事業コース

自主事業コースのコーディネーターは、田上パールを主宰する劇作家・演出家であり、富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督の田上豊さんです。田上さんは、2013年から地域創造の派遣アーティストを務め、また、豊岡市に開学したばかりの芸術文化観光専門職大学の助教でもあります。

今回のラボでは、キラリの芸術監督仲間である多田淳之介さん、白神ももこさんによる演劇・

ダンスのワークショップ(WS)とキラリでの取り組みを紹介するレクチャー、ホール事業の制作者としての視点を学ぶ座学、そして10時間以上かけた創作に挑戦しました。

子どもたちと芸術監督と一緒に遊びを考え、「初めて会った友達と自由遊びをする機会のない子どもたちに場を提供し、ホールで遊んだ記憶をつくる」(多田)という「こどもステーション☆キラリ」、ホール中庭を自由に使った多彩なトーク付きダンスをワンコインで楽しんでもらう「ダンスカフェ」など。キラリを住処としてきたアーティストだからこそこの自由な発想で行われている企画に、受講生は大いに刺激を受けていました。

創作は、田上さんとWSをつくるチームと、大池容子さん(うさぎストライプ主宰、劇作家・演出家)と参加者の作・演出・出演による創作劇をつくるチームに分かれて体験。最終日にホール入門コースの受講生がワークショップ参加者・観客になって発表が行われました。

WSでは、「ひとこと自己紹介」で緊張を解くアイスブレイクに始まり、ジャンケンを使ったコミュニケーション・ゲーム(勝った人が負けた人に質問)、「ダルマさんが転んだ」を応用したワーク(振り返ったときに「みんなでカレーライス」××さんを囲んで取材)などの指示でワーク)などを、

写真

左上:ホール入門コース「出かける、みつける」

右上:自主事業コース「WS体験会」

左下:自主事業コース「作品発表」

右下:公立ホール・劇場マネージャーコース「参加者、ゲスト講師を交えた形でのディスカッション」

●コースコーディネーター

○ホール入門コース

小川智紀(認定NPO法人STスポット横浜 理事長)

○自主事業コース

田上豊(劇作家・演出家、田上パール主宰、富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督)

○公立ホール・劇場マネージャーコース
会田大也(山口情報芸術センター[YCAM]アーティストディレクター)

●「ステージラボ」に関する問い合わせ

芸術環境部 研修担当

Tel. 03-5573-4183

交替でファシリテーター役を務めながら展開。また、創作劇では、「実際にあるものや場所をよく観察して生まれるアイデアから作品をつくる」(大池)というアプローチで、劇場の見学や取材に訪れた人たちと案内者という設定を基に、出演者が事前に自身のホールで撮影した「お気に入りの場所」などの写真から発想をふくらませたオリジナル作品2本を熱演しました。

参加者からは、「ジャンケンはただの遊びではなく、それだけでこんなに楽しい時間ができる、交流できるのに驚いた」「自分はこういう人なんだというのがわかった」「同じ状況の人たちと話が来て、自分の考えるべきことがわかった」「小学校以来の劇だったがみんなの妄想力がすごかった。やる側の気持ちがわかるようになった」「自分がこんなに演劇をやりたくなるとは思っていなかった」などさまざまな感想が聞かれました。

●多角的な座学～ホール入門とマネージャーコース

ホール入門コースのコーディネーターは、認定NPO法人STスポット横浜理事長の小川智紀さんです。受講生全員がホール経験3年未満となった入門では、コロナ禍で思うように仕事ができている受講生を対象に、ホール運営の前提となるまちとの関係など、心構えのヒントとなる多角的な座学が行われました。

中でも、2021年に豊橋市に開館した「まちなか図書館」(夜9時まで開館。飲食、会話、自習といった、従来の図書館では禁止されることが多い事項を解禁し、たくさんのイベントを展開)の視察と講義は刺激的でした。市職員でまちなか図書館企画連携グループの増田隆人さんは、「人とつながり、まちとつながる」をコンセプトに開館前から種まきをしてきた。……これまでの図書館は個々がインプットするところだったが、これからの図書館は体験を共有して発信するアウトプットが求められる。そもそも私たちの目標は何か。まちなか図書館に来た人にまちづくりの担い手になってもらうこと。すべてはそのための手段」という説明に、みんな納得した表

情でした。

また、山口情報芸術センター[YCAM]のアーティスティックディレクターの会田大也さんがコーディネーターを務めた公立ホール・劇場マネージャーコースでは、YCAMの成り立ちや、デジタル技術を活用した子どもたちのためのWSや新しいスポーツ競技を考えるスポーツハッカソン、発表した多くの作品が国内外を巡回している滞在制作など多様な取り組みについて紹介。「それもこれも機器が安価になり、技術やメディアを誰でも使えるようになったから。そういう技術が民主化したときに創造力が爆発するのを支援したい」と会田さん。その後、表現の自由と規制、小さな公民館の取り組み、他分野連携、公立文化施設の存続などについてゲスト講師からの話題提供を受け、少人数で席替えをしながら議論するワールドカフェ形式で理解を深め、最後に各受講生が得たことを共有して締めくくりました。

この他、共通プログラムでは、公募・指名により年間4組のダンサーをレジデンス・アーティストとして受け入れているPLATのダンス事業を紹介。井田亜彩実さんと黒須郁海さんが滞在制作した作品のショーイングを鑑賞し、公立ホールのダンス事業の可能性について考えました。

ステージラボ豊橋セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
2日15日	開講式/オリエンテーション		
	「知る、話す」 小川智紀	「ワークショップ体験+レクチャー①」 白神ももこ、多田淳之介、田上豊	「イントロダクション」 会田大也
	「あるく、さがす」 小川智紀	「レクチャー②」 津村卓、加賀田浩二、大池容子、田上豊	「ゲスト講師によるレクチャー」 太下義之、出口亮太、原久子、作田知樹
2日16日	「つたえる、知る」 高森順子	「自分たちで作る作品 or WSプログラム①」 田上豊、大池容子	「参加者、ゲスト講師を交えた形でのディスカッション」 太下義之、出口亮太、原久子、作田知樹、会田大也
	「思い出す」 小川智紀	共通プログラム「PLAT『ダンス・レジデンス』ショーイング 地域におけるダンス事業の可能性を考える」 井田亜彩実、黒須育海	
2日17日	「出かける、みつめる」 小川智紀	「自分たちで作る作品 or WSプログラム②」 田上豊、大池容子	「本プログラムで得られたことを全員でシェア」 会田大也
	「ゆらぐ、生まれる」 宮下美穂	「自分たちで作る作品 or WSプログラム③」 田上豊、大池容子	修了式
	「出あう、かかわる」 吉野さつき	「自分たちで作る作品 or WSプログラム④」 田上豊、大池容子	
	「かんがえる」 小川智紀		
2日18日	「出あいなおす」 小川智紀	「作品発表・WS体験会」 田上豊、大池容子	
	修了式		

財団からのお知らせ

◎iichiko総合文化センター

大分県の芸術文化の拠点施設として1998年9月に開館。客席数1,966席の大ホール・iichikoグランシアタは、オーケストラはもちろんオペラやバレエなどの大規模公演に対応できる舞台・設備をもつ九州屈指のホールであり、客席数710席のiichiko音の泉ホールは、音の響きが大変良く、室内楽などのクラシックコンサートホールとして、それぞれ数多くの公演が開催されてきました。また、センター1階のiichikoアトリウムプラザは屋内のイベント広場として、大小の練習室等を備えた地下1階のiichikoスペース・ビーは日常の芸術文化活動や練習の場として大いに活用していただいています。さらに、県立美術館が隣接するという強みを生かして、センターと美術館が連携した活動を積極的に展開しています。指定管理者は公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団。

●ステージラボ大分セッション参加申し込み方法

当財団ホームページから募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。
<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>
申し込み先:kensyu@jafra.or.jp

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 研修担当
Tel. 03-5573-4183

●ステージラボ大分セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和4年度の前期セッションは、iichiko総合文化センター(大分県)にて3コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切:2022年4月25日(月)必着

●ステージラボ大分セッション概要

[日程] 2022年7月5日(火)～8日(金)
※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ5日(火)～7日(木)
[会場] iichiko総合文化センター(大分県大分市高砂町2-33)
[開講コース] ホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコース
[定員] 各コース20名程度
[主催] 一般財団法人地域創造
[共催] iichiko総合文化センター、大分県
※新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で実施いたします。
※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更となる場合がございます。

◎ホール入門コース

【コーディネーター】
花田和加子(ヴァイオリニスト/地域創造おんかつコーディネーター)

【対象となる職員の目安】
公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織は年数不問)の職員

【コース概要】
地域に愛される、街のみなさんに自慢してもらえらるホール・劇場とはどんなところでしょうか? 地域に感動や笑顔や新しい活力が広がる、みなさんのホールや劇場がその中心的存在になるにはどんなことをすればよいでしょうか? ホールから外に飛び出して、アウトリー

チの手法を用いた新しい「化学反応」を起こせるかどうか、その可能性を4日間の中で一緒に探してみましょう。

◎自主事業コース

【コーディネーター】
別府一樹(日本フィルハーモニー交響楽団 事務次長兼音楽の森部長)

【対象となる職員の目安】
自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の職員

【コース概要】
今日、事業担当者の役割は、アーティスト(アート)のもつ価値と、地域の課題や状況の結節点として事業を企画していくことであるともいえます。本コースでは、地域活動や教育活動を実践している「音楽」と「ダンス」の2組のアーティストをゲストに迎え、彼らのワークショップを体験し、また参加者同士がそれぞれの地域課題を語り合い、その課題を想定した新たなプログラムづくりをアーティストと共に経験していきます。

◎公立ホール・劇場マネージャーコース

【コーディネーター】
松浦茂之(三重県文化会館 副館長兼事業課長)

【対象となる職員の目安】
公共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ職員

【コース概要】
2012年劇場法施行からはや10年、これからの劇場はどうあるべきか? まずは「人」と「場」に着眼し、組織、サービス、施設管理など、劇場を取り巻くあらゆる経営環境についてみんなで考えます。そして地域の文化振興の拠点となる劇場はどのような事業展開を図るべきなのか? 地域に合った文化振興をグランドデザインするヒントをみんなで考えましょう。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和元・3年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」長野セッション報告

長野県文化振興事業団との共催で令和元・3年度と実施してきた「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」。今年度は、Quatuor ÉlanとModétro Saxophone Ensemble、ル・レーヴピアノ三重奏団が長野県内6市村(松川村、安曇野市、飯山市、伊那市、筑北村、茅野市)で小学校等へのアウトリーチとホールコンサートをを行いました。

そして事業の集大成として、2022年2月26日にガラコンサートをキッセイ文化ホールで開催。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により出演者と演奏曲目を一部変更した上での開催となり、演奏前にガラコンサートに出演できなかったアーティストからのビデオメッセージやアナウンスが流れました。コンサートではアウトリーチにて使用した曲を中心に演奏が行われ、曲間には市町村公演での思い出などが語られました。アンコールには3組のアーティストが合同演奏を披露。長野県歌である『信濃の国』や『ふるさと』、『上を向いて歩こう』が演奏され、客席からは曲ごとに大きな拍手が送られました。

今回、長野県文化振興事業団の担当者として

この事業に携わった小市尚美さんは、「令和2年度の事業が1年延期となったため、実質3年間担当した。新型コロナウイルス感染症の影響も大きい中、従来どおりの実施ができない部分も多かったと思うが、アーティストやコーディネーター、市町村担当者など関係者の皆様が最善を尽くしてくださり、感謝している」と振り返っていました。

公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業は長野セッションにて終了となり、事業刷新に向けて検討を重ねています。概要が決定次第、地域創造レター等でお知らせいたします。



キッセイ文化ホールでのガラコンサート

●令和元・3年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業

●市町村公演実施団体(主会場/派遣アーティスト/日程)※すべて長野県内

●松川村(松川村多目的交流センター ずの音ホール/ル・レーヴピアノ三重奏団/10月13日~16日)

●安曇野市(安曇野市穂高交流学習センター「みらい」/Modétro Saxophone Ensemble/10月27日~30日)

●飯山市(飯山市文化交流館なちゅら/Quatuor Élan/11月10日~13日)

●伊那市(ニシザワいなっせホール/Quatuor Élan/11月24日~27日)

●筑北村(筑北村本城農村環境改善センター/Modétro Saxophone Ensemble/12月15日~18日)

●茅野市(茅野市民館/ル・レーヴピアノ三重奏団/2022年1月12日~15日)

※茅野市においては小・中学校でのアウトリーチがすべて中止となったため、アウトリーチプログラムを茅野市民館にてビデオ収録し、DVDを小・中学校に配布した。

●ガラコンサート

[会場]キッセイ文化ホール(松本市)

[日程]2022年2月26日

●公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業に関する問い合わせ

芸術環境部 音楽担当

Tel. 03-5573-4185

●令和3年度「邦楽活性化事業」報告

●令和3年度「公共ホール邦楽活性化事業」報告

地域創造が市町村等と共催し、邦楽分野の地域交流プログラム(アクティビティ)とホールプログラムを実施する「公共ホール邦楽活性化事業」。今年度は新型コロナウイルス感染症のため1地域が中止となり、岩手県釜石市、茨城県つくば市、三重県伊賀市、福岡県豊前市の4地域での実施となりました。

釜石市では、当初令和元年度に実施予定だったものを2年越しで実現することとなりましたが、全国的な感染者数の増加により、アクティビティ4回のうち3回分をオンラインで実施しました。

オンラインアクティビティでは、ネット接続が不安定になった場合に備え、演奏部分は事前収録し、間のMCはアクティビティ先とZoomで繋ぐ形を取りました。演奏の映像では、普段は間近で見るのできない箏の手元などをアップにし、動画ならではの見せ方を工夫しました。MCではクイズを取り入れたり、参加者の反応を伺ったりすることで、オンラインでも双方向のコミュニケーションに努めました。また、地域の方々が体験用の楽器を貸し出してくださり、実物の楽器をアクティビティ先に持ち込むことができた

め、すぐ近くで楽器の構造を見たり、実際に琴柱を立てるなど、立体感のあるアクティビティとなりました。

ホール公演ではたくさんのお客様に邦楽の演奏を楽しんでいただき、「やっとな釜石の皆さんにお会いできました」と演奏家の喜びもひとしおでした。

当事業では、日本の伝統音楽を身近に感じていただけるよう、工夫を凝らしたプログラムを行います。令和4年度は今年度からの延期も含め、8地域で実施予定です。



ホールからのオンラインアクティビティの様子(左から)山形光、岡村慎太郎、黒田鈴尊

●令和3年度「邦楽活性化事業」

●実施団体(主会場/派遣演奏家/日程)

●岩手県釜石市(釜石市民ホールTETTO/岡村慎太郎、山形光、黒田鈴尊/2022年2月24日~26日)

●茨城県つくば市(つくばカピオホール/本田浩平、橋本大輝、安藤龍正/2022年2月19日、2月28日~3月1日)

●三重県伊賀市(あやま文化センター/麻植理恵子、川崎貴久、小林鈴純/11月25日~27日)

●和歌山県上富田町(上富田文化会館/本間貴士、多田彰子、澄川武史/9月9日~11日)※中止

●福岡県豊前市(豊前市市民会館/藤高理恵子、日原暢子、養田弘大/9月30日~10月2日)

●公共ホール邦楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 邦楽担当

Tel. 03-5573-4064

財団からのお知らせ

●令和3年度「リージョナルシアター事業」

◎実施団体(派遣アーティスト/日程)

北海道大空町(福田修志/6月24日～27日、7月14日～17日)、秋田県(田上豊/12月25日～28日、2022年3月17日)、福井県大野市(多田淳之介/7月7日～10日、2022年2月1日～4日)、静岡県掛川市(有門正太郎/10月29日～11月1日、2022年2月26日～3月1日)、大阪府枚方市(ごまのはえ/2月11日～13日)、福岡県久留米市(多田淳之介/2022年1月26日～29日、2月21日～23日)、熊本県荒尾市(ごまのはえ/11月19日～22日、12月10日～13日)

●リージョナルシアター事業に関する問い合わせ

芸術環境部 演劇担当

Tel. 03-5573-4124

●令和3年度「公共ホール現代ダンス活性化事業」実施団体(アーティスト/日程)

◎Aプログラム

岐阜県岐阜市(長井江里奈/11月3日～6日)、北九州市(藤田善宏/11月17日～20日)、堺市(マニシア/2022年1月20日～23日)、神奈川県茅ヶ崎市(藤田善宏/2022年2月4日～5日)、大阪府泉大津市(康本雅子/2022年3月4日～6日)

◎Bプログラム

愛知県豊橋市(田村一行/7月9日～11日、11月16日～21日)、福島県白河市(康本雅子/12月2日～5日、2022年1月12日～16日)

◎Cプログラム

沖縄県浦添市(北尾亘/7月1日～4日)、石川県野々市市(藤田善宏/12月16日～19日)、岩手県宮古市(田村一行/2022年1月20日～23日)、山形県酒田市(中村蓉/2022年2月3日～6日)、山形県鶴岡市(長井江里奈/2月9日～12日)※中止、(愛知県小牧市(長井江里奈/2022年3月2日～5日)、徳島県(セレノグラフィカ/2022年3月2日～5日)

●公共ホール現代ダンス活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 ダンス担当

Tel. 03-5573-4077

●令和3年度「リージョナルシアター事業」報告

演出家等を公共ホールに派遣し、アウトリーチやワークショップを実施するリージョナルシアター事業。今年度は7団体が参加し、派遣アーティストとホール担当者らが、対話を重ねながら企画した事業を実施しました。

静岡県掛川市では、「掛川不思議発見! マチ歩き」と題し、まちの人たちと掛川城周辺を散策しながら、気になる場所を見つけたら写真を撮影。印刷した写真へ自由に絵を描き足し、タイトルを付けて発表しました。いつも見ている風景でも、想像し、見方を変えることで全く違うものを見つげられることの面白さを発見しました。参加者からは、「普段とは違う視点でものを見ることができて面白かった」との意見が上がりました。そのほか、教職員対象のインリーチや、財団や市の職員対象のワークショップも実施し、今回の事業で関わった人々を巻き込みながら地域を盛り上げていくきっかけづくりができました。

熊本県荒尾市では、荒尾の昔や現在の写真から、短い脚本をつくる「脚本ワークショップ」を実施。併せて実施した「表現ワークショップ」にて、脚本ワークショップで完成した作品のうち6作品に、ホールで劇団として活動するステージ☆キッズ

の子どもたちや公募市民が民族楽器などで効果音を付けて朗読し、成果発表としてボイスドラマ録音を行いました。発表後のステージ☆キッズと参加した大人たちとの交流では、脚本を書いてみたいという声も上がるなど、ホールの活動に新たな広がりが見られ、今後に繋がる事業となりました。

当事業では、派遣アーティストと共に多様なプログラムを実施することを通じて、ホールや地域の抱える課題と向き合い、地域の魅力や資源を発見することができます。次年度も7地域で実施予定ですので、近隣地域で実施の際はぜひご視察ください。なお、来年度の参加団体の募集については、後日詳細をお知らせいたします。



まち歩きワークショップの様子(掛川市/有門正太郎)

●令和3年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」報告

コンテンポラリーダンスのアーティストと公共ホールが共同で地域やホールの特性を生かした企画を実施する「ダン活」。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により1地域が中止となり、Aプログラム(地域交流プログラム)を5地域、Bプログラム(市民参加作品創作プログラム)を2地域、Cプログラム(公演プログラム)を6地域の計13地域で実施しました。

大阪府堺市は、「さまざまな立場の市民にコンテンポラリーダンスを体験してもらいたい」との思いでAプログラムに取り組みました。車いすバスケットボールチームのアウトリーチではアーティストも競技用車いすに乗りながら、練習を体験したあと、チーム名から「S・U・N」の3文字を太鼓の生演奏とともに全身で表現。スポーツとダンスで双方向の交流が生まれ、普段の練習では気付けない個々の表現を見つける機会となりました。

Cプログラムの山形県酒田市では、バレエ『ジゼル』を題材にした作品を上演。大ホールの客席が背景になるよう舞台上に客席を組むオリジナル演出による独創的な世界観で、コンテンポラリーダンスの魅力や可能性を広く市民に発信しまし

た。また、隣接する鶴岡市と市域を越えた連携プロジェクトを実施する挑戦も行われました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により調整に苦慮する場面も多くなりましたが、市民が集う機会が減る中で身体を通したコミュニケーションの手応えを感じる様子が見られました。ホール同士や地域の協力者との密な情報交換や、来場が叶わなかった市民に向けた事業実施後の広報など、各担当者が強い思いを持って取り組んだ経験や関係性が今後に繋がることを願っています。なお、来年度の実施団体募集については、次号および当財団ホームページでお知らせします。



車いすバスケットボールチームでのアウトリーチ(Aプログラム/堺市/マニシア)

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● 地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

● データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業(予定)です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当

● 2022年6月号情報締切
4月22日(金)

● 2022年6月号掲載対象情報
2022年6月～8月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

● 青森県八戸市

八戸市美術館
〒031-0031 八戸市大字番町10-4

Tel. 0178-45-8338 篠原英里

<https://hachinohe-art-museum.jp/>

持続するモノガタリ—語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから

作品(モノ)が語ることで、人が作品を語ることで2つの意味での「モノガタリ」によって、美術館のコレクションの物語を持続させることをテーマとした展覧会。八戸市美術館のコレクション成立の歴史や風景、人々の交流といった時間・場所・人を切り口にして、作品とともに、作家本人や関係者が作品の制作ポリシーや生き方、作家・作品との思い出を語ったインタビュー映像を展示する。

[日程] 3月19日～6月6日

[会場] 八戸市美術館



八戸市立湊中学校養護学級生徒(虹の上をとぶ船総集編II 星空をペガサスと牛が飛んでいく)(1976年/八戸市美術館蔵)

● 宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館
〒985-0052 塩竈市本町8-1
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加
<https://sugimurajun.shiomo.jp/>

まちのきおくをみつめる、かたる「昭和のしおがま—海とまち—」

洋画家・杉村惇が塩竈に居を構えた昭和20年から40年にかけての時代背景に関する資料を中心に、海との関わりから浮かび上がるまちの記憶や個人体験に焦点を当て、市民から寄せられた昭和時代の塩竈の記録写真やエピソードを展示。思い出の情景を再現するなど、“まちの

記憶”を振り返り、市民と地域との繋がりを再確認する。

[日程] 4月29日～6月19日

[会場] 塩竈市杉村惇美術館

関東

● 茨城県水戸市

水戸芸術館
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8111 竹久侑
<https://www.arttowermito.or.jp/>

浅田政志 だれかのベストアルバム

「家族」と「記念写真」をテーマに活動する写真家・浅田政志による作品を、制作の原点から最新作まで、本人の言葉とともにたどる最大規模の個展。茨城県在住の5組の家族を撮影した「私の家族」茨城版を初公開するほか、写真の「残し方」について考えるきっかけとなった東日本大震災の写真返却活動の今を追跡して紹介する。40歳以上を対象に、浅田が生前遺影を撮影するイベントも実施。

[日程] 2月19日～5月8日

[会場] 水戸芸術館現代美術ギャラリー

● 群馬県高崎市

高崎芸術劇場
〒370-0841 高崎市栄町9-1
Tel. 027-321-7302 小谷野紀子
<http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/index.php>

群馬交響楽団×高崎芸術劇場 GTシンフォニック・コンサート vol.1「三大交響曲」

群馬交響楽団と高崎芸術劇場がタッグを組んだ新たな演奏会シリーズ。令和4年度は5回の公演を予定しており、プログラムは名曲作品で構成する「クラシック」と映画・ミュージカル音楽などの「ポピュラー」の2スタイル。1回目となる今回は、当劇場の芸術監督である大友直人の指揮により、人気の三大交響曲『運

命』『未完成』『新世界より』を披露する。

[日程] 4月9日

[会場] 高崎芸術劇場

● 群馬県太田市

太田市文化スポーツ振興財団
〒373-0026 太田市東本町16-30
Tel. 0276-55-3036 矢ヶ崎結花
<https://www.artmuseumlibraryota.jp/>

本と美術の展覧会 vol.4 「めくる、ひろがる—武井武雄と常田泰由の本と絵と—」

2017年から開催してきた、美術館と図書館の複合施設ならではのシリーズ企画。第4弾では、本における重要な要素である“めくる”動作に着目し、童画家・武井武雄(1894～1983)と版画家・常田泰由(1980～)の作品を紹介する。武井と常田の本にまつわる作品をはじめ、版画や水彩画、コラージュ、作品がめくられていく映像などが展示され、本と美術の接点に思いを寄せることが出来る。

[日程] 3月5日～5月29日

[会場] 太田市美術館・図書館

● 埼玉県

埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5506 関下景子
<https://www.saf.or.jp/arthall/>

ジャンル・クロスI (近藤良平 with 長塚圭史)「新世界」

2022年4月より、彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督に就任する近藤良平の新企画。神奈川芸術劇場の芸術監督である劇作家・演出家の長塚圭史が強力にサポート。〈クロッシング—多彩なアーティストがクロス/多様な人々がクロス/地域あるいは地域間でクロス〉をテーマに掲げ、シェイクスピアの『テンペスト』などをモチーフに、ダン

ス・演劇・サーカス・音楽・切り絵など多彩なジャンルのアーティストがクロスするファンタジックな舞台。

[日程] 4月29日～5月1日

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場

●千葉県市川市

市川市文化振興財団

〒272-0025 市川市大和田1-1-5

Tel. 047-379-5111 佐賀知慧

<https://www.tekona.net/bunkakaikan/>

スペシャル・午後のクラシック ～オペラ・ガラコンサート～

2022年4月にリニューアルオープンを迎える市川市文化会館。その記念事業の一環で、財団が主催する新人演奏家コンクールの入賞者によるコンサートシリーズ「午後のクラシック」のスペシャルバージョンを開催。内田智子(ソプラノ)、前川健生(テノール)などを迎え、オペラ・ガラコンサートを行う。曲目は、ブッチーニ『ラ・ボエーム』より、切ない2組の愛の物語が詰まった第3幕などを予定。

[日程] 4月16日

[会場] 市川市文化会館

●東京都立川市

立川市地域文化振興財団

〒190-0022 立川市錦町3-3-20

Tel. 042-526-1312 山路順子

<https://risuru.hall-info.jp/>

春夏秋冬コンサート～三月(みつき)に一度の音楽会～[春] 人生を変えたヴァイオリンとの出会い

年4回、四季折々に趣の異なる音楽を愉しむ小ホールコンサート。第1弾は、視力障がいを負った幼少期にヴァイオリンと出会い、現在は社会派アーティストなど多方面に影響を与える川島成道を迎え、ベートーヴェン/ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」ほかをお贈りする。夏は日本のクラ

シック音楽(津軽三味線:阿部金三郎・銀三郎ほか)、秋は2台のチェロ(金子鈴太郎、笹沼樹)、冬はニューイヤーコンサート(メゾソプラノ:池田香織、ハーブ:操美穂子)を予定。

[日程] 4月16日

[会場] たましんRISURUホール

●東京都府中市

府中市美術館

〒183-0001 府中市浅間町1-3

Tel. 042-336-3371 金子・音・大澤

<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/index.html>

春の江戸絵画まつり「ふつうの系譜」

毎年恒例の江戸絵画展。今回のテーマは「ふつう」。今回は、江戸時代の画家では伊藤若冲や曾我蕭白ら「奇想の画家」が人気を集めているが、奇想はそうではない「ふつう」があってこそ成り立つと考え、奇想の画家と同時代に美術界のメインストリームで「ふつう」の「きれいなものづくり」に情熱を傾けた画家たちの作品を、敦賀市立博物館のコレクションの中から紹介する。

[日程] 3月12日～5月8日

[会場] 府中市美術館

●東京都国立市

くにたち文化・スポーツ振興財団

〒186-0003 国立市富士見台

2-48-1

Tel. 042-574-1515 齊藤おかり

<https://kuzaidan.or.jp/hall>

多和田葉子 複数の私vol.05+芸小クリエイションシリーズⅢ 「くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』」

2019年度に立ち上がった「芸小クリエイションシリーズ」の3回目。第1回でも戯曲を取り上げた、国立市出身の作家・詩人である多和田葉子の書下ろし作品を世界初演する。作曲に平野一郎、演出に川口智子、振付に

北村成美を招き、約40人の市民コーラスや国内外で活躍する歌手・俳優・楽隊など、さまざまな分野から集まったメンバーが総力で新作オペラに挑戦する。

[日程] 4月30日、5月2日、3日

[会場] くにたち市民芸術小ホール

●横浜市

横浜市民ミュージカル公演実行委員会

〒231-8455 横浜市中区住吉

町4-42-1(関内ホール内)

Tel. 045-662-1221 三浦陽平

<https://www.kannaihall.jp/>

大船撮影所誕生85周年記念 横浜市民ミュージカル

『忍 SHINOBI 2022～ヒーローになりたい君へ～』

横浜を拠点に活動する赤い靴記念文化事業団を中心とした実行委員会が関内ホールと主催する市民ミュージカル。毎回横浜を舞台やテーマとする作品を上演しており、今回は、小学生が1994年の大船撮影所にタイムスリップする「生き抜く力」をテーマにしたストーリーとなっている。2月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症による延期公演で、5日は昼夜公演ともライブ配信が予定されている。

[日程] 4月4日、5日

[会場] 関内ホール



『忍 SHINOBI～ヒーローになりたい君へ～』(2018年7月)

●神奈川県小田原市

市民ホール開館記念事業実行委員会

〒250-0012 小田原市本町1-

7-50

Tel. 0465-20-4152 森田百合花

<https://ooo-hall.jp/>

小田原市民ホール開館記念事業 小田原ふるさと大使コンサート 林英哲

2021年9月に開館した小田原三の丸ホール(市民ホール)開館記念事業の一環として、世界で活躍する太鼓奏者で小田原ふるさと大使である林英哲によるスペシャルコラボコンサートを開催。上妻宏光(三味線)や藤原道山(尺八)、林率いる和太鼓ユニット・英哲風雲の会といった邦楽界を代表するアーティストが競演する。

[日程] 4月9日

[会場] 小田原三の丸ホール

北陸・中部

●新潟市

りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2

Tel. 025-224-7000 森田雅子

<https://www.ryutopia.or.jp>

能楽講座「能楽師に聞く 能の楽しみ」第1回～『湯谷』編～

一つの能をテーマに、初心者でも楽しめる鑑賞方法や能の見どころを紹介する好評のシリーズ。年間テーマの「平家物語」から、初回は能「湯谷」をテーマに取り上げ、能の鑑賞が初めてという人にも十分に楽しめるように、能楽師がわかりやすく解説と実演を行う。7月は『八島』、10月は『経政』を予定。

[日程] 4月20日

[会場] りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館

●富山県富山市ほか

オーバード・ホール

〒930-0858 富山市牛島町9-28

Tel. 076-445-5610 福岡美奈子

<http://www.aubade.or.jp/>

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

日仏共同製作 新作舞台作品 束芋×ヨルグ・ミュラー 『もつれる水滴』

アニメーション映像を制作する日本の現代美術家の束芋とフランスを拠点とする現代サーカスパフォーマーのヨルグ・ミュラーによる国際共同製作作品の世界初演。2年間にわたってクリエイションを重ね、さらに富山に2カ月間滞在して制作された。全国4劇場(富山、東京、山口、沖縄)の連携公演であり、国内ツアーを経てフランスでの公演も予定。ミュラーによる一般公募のワークショップなど関連企画も実施。

[日程・会場] 4月28日～30日: オーバード・ホール/5月3日～5日: 東京芸術劇場/5月14日、15日: 山口情報芸術センター/5月21日、22日: 那覇文化芸術劇場なはーと



© watsonstudio

●石川県金沢市

いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭実行委員会
〒920-0856 金沢市昭和町20-1 (石川県立音楽堂内)
Tel. 076-232-8113 戴恵理
<https://www.gargan.jp/>

いしかわ・金沢 風と緑の楽都 音楽祭2022

金沢を中心に、北陸の各地で開催されるクラシック音楽の祭典。今年のテーマは「ロマンのしらべ～金沢が浪漫に染まる～」。

19世紀のヨーロッパにおけるロマン派の美しい音楽を、東京交響楽団など世界中から集結したオーケストラ、演奏家が奏でる。

伝統芸能やダンスとのコラボレーション企画や、市民参加型プログラム、地元若手音楽家のステージなど、音楽祭を盛り上げるさまざまな企画が用意されている。

[日程] 4月28日～5月5日
[会場] 石川県立音楽堂ほか

●長野県長野市

長野市文化芸術振興財団
〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613
Tel. 026-219-3100 長谷川綾
<https://www.nagano-arts.or.jp/>

水曜ひるまのクラシック・リサイタルシリーズvol.29 塚越慎子 マリンバ・リサイタル

平日の午後に、リラックスした雰囲気、今注目を集めるアーティストの上質なクラシック・リサイタルを楽しめる人気企画。5年目となる今年度シリーズ(全8回)の初回は、シリーズ初の打楽器奏者・塚越慎子(マリンバ)が登場する。トークコーナーでは、音楽や楽器との出会いや楽器の特徴、長野のイメージなどを聞く。アーティストお薦めのぶちスィーツ付き。

[日程] 4月20日
[会場] 長野市芸術館

●静岡市

静岡県立美術館
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
Tel. 054-263-5755 新田建史
<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/>

大展示室展

昨年9月から改修のため休館中だった静岡県立美術館が、4月2日から再始動。記念すべき最初の企画展は、展示室そのものに焦点を当てる。作品を展示するための「ハコ」である美術館の展示室には、安全に、そして快適に作品を鑑賞してもらうためにさまざまな工夫が施されている。

本展では展示室のさまざまな機能を一挙に紹介。普段はひっそりと身を隠す美術館の裏方を鑑賞することができる。

[日程] 4月2日～5月15日
[会場] 静岡県立美術館

●愛知県幸田町

幸田町文化振興協会
〒440-0103 額田郡幸田町大字大草字丸山60
Tel. 0564-63-1111 金澤大介
<https://www.happiness.kota.aichi.jp/hall/index.htm>

ハッピネス・ヒル ワンコインコンサートVol.64 ヴィオラとピアノによる至福の時間

誰もが知っている名曲と、ゲストの楽しいおしゃべりで過ごす、ランチタイム前に気軽に楽しむ1時間のコンサート。今回は日本フィルヴィオラ客演首席奏者の安達真理(ヴィオラ)、2007年シュールベルト国際コンクール優勝の佐藤卓史(ピアノ)を迎える。チケットレスのコンサートなので、気軽に足を運べる。次回は5月20日と6月14日に開催。

[日程] 4月12日
[会場] 幸田町民会館

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7133 館脇昭
<https://festival.biwako-hall.or.jp/2022/>

近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2022

4回目を迎えるクラシック音楽の祭典。芸術監督・沼尻竜典のプロデュースとしては最後の開催となる。今回のテーマは、「さよなら、故郷の家よ」。小山実稚恵や牛田智大など注目のピアニストと京都市交響楽団の共演をはじめ、厳選された一流アーティストの公演を多数楽しめる。

また、びわ湖ホール声楽アンサンブル卒業生による前日祭公演(29日)では無料ライブ&アーカイブ配信も行う。

[日程] 4月29日～5月1日
[会場] びわ湖ホールほか

●大阪府河内長野市

河内長野市文化振興財団
〒586-0016 河内長野市西代町12-46
Tel. 0721-56-6100 山田愉香
<https://lovelyhall.com/>

HAPPY LOVELY Anniversary

ラブリーホールが開館30周年を記念して開催するスペシャルイベント。館が主催するミュージカルスクールの歌とダンスや、河内長野吹奏楽団ブルーウインズの迫力ある演奏を楽しめるコンサート、館が制作する「奥河内音絵巻」シリーズで音楽監督を務めるサキタハヂメら4名のパネリストが館の「これから」について語るトークセッションのほか、舞台セット前で記念写真を撮れるイベントなどが催される。

[日程] 4月23日
[会場] ラブリーホール(河内長野市立文化会館)

●兵庫県姫路市

姫路市文化国際交流財団
〒670-0913 姫路市西駅前町88 キャスパ7F
Tel. 079-284-5806 愛知可奈子
<https://caspahall.himeji-culture.jp/>

アクリエひめじオープニングシリーズ/キャスパシアタープロジェクト「音楽劇 かがみの孤城」

姫路キャスパホールで平成28年度から令和元年度まで実施されていた「高校生による演劇公演」を引き継いで、令和2年度からスタートした演劇プロジェクトの第2回公演。公募で選ばれた中学生から25歳の参加者が、プロの演出家や音楽家と共に、演劇公演を制作する。構成台

本・演出を姫路市出身の演劇プロデューサー・笹部博司が務め、参加者は、制作や裏方業務などのさまざまな役割にも取り組む。2021年9月にオープンしたアクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)で上演される。

[日程] 4月2日、3日

[会場] アクリエひめじ



前年度の公演「音楽劇 シンデレラ」

中国・四国

●島根県

しまね文化振興財団
〒698-0022 益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1866 仲西透
<https://www.grandtoit.jp/>

演劇つくろう！ グラントワ演劇工房

初心者から経験者まで気軽に演劇に参加できる機会となることを目指して実施している「グラントワ演劇工房」。今回は、島根で長年にわたって演劇活動をしている講師と共に、演劇の基礎から作品づくりまでを楽しく体験する。最終日には一般客を迎えて、小作品をリーディング形式で上演。演劇の一連の流れを凝縮して体験することで、演劇への理解と関心を深める。

[日程] 3月12日、13日、4月29日～5月1日

[会場] 島根県芸術文化センター
グラントワ

●島根県浜田市

浜田市教育文化振興事業団
〒697-0016 浜田市野原町859-1
Tel. 0855-23-8451 高野訓子
<http://www.hamada-kodomo-art.com/>

柚木沙弥郎の世界

染色作品をはじめ、版画や絵本原画など、表現の域を超えて活躍する染色家・アーティストの柚木沙弥郎の展覧会。約180点の作品を「染色」「版画」「絵本」「水彩とコラージュ」の4つの世界に分けて紹介する。関連イベントとして、柚木の絵本や影絵を使った「影絵&絵本の読み聞かせ会」なども開催。

[日程] 3月12日～5月8日

[会場] 浜田市世界こども美術館

●島根県安来市

安来市総合文化ホール アルテピア
〒692-0014 安来市飯島町70
Tel. 0854-21-0101 坂口寛
<https://www.artepia.jp/>

HAGANE MUSIC 2022第一弾 サキタハヂメ ミュージカルソ コンサート

2018年から民俗音楽や伝統音楽を世界に発信するべく活動する国内外のアーティストをハガネ(鋼)の街・安来に招聘して開催しているHAGANE MUSIC。5年目を迎える今年の第1弾は、ミュージカルソ(のこぎり音楽)奏者として世界大会で2度も優勝を果たし、作曲家としても活躍するサキタハヂメ。無骨なのこぎりの見た目とは裏腹に、繊細かつ美しい音色による演奏をお届けする。

[日程] 4月30日

[会場] 安来市総合文化ホール
アルテピア

●香川県丸亀市

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
〒763-0022 丸亀市浜町80-1
Tel. 0877-24-7755 古野華奈子
<https://www.mimoca.org/ja/>

生誕120周年記念 猪熊弦一 郎回顧展 美しいとは何か

今年生誕120周年を迎える猪熊弦一郎の画業を回顧する展覧会。香川県で生まれ、およそ

70年一貫して「美」の表現を追求してきた猪熊が作品として生み出した多様な美と、美への思いを紹介する。作品とともに、「色」「形」「単純化」「バランス」といったキーワードや、猪熊が美について述べた言葉などを掲示することで、美の探究の軌跡をたどる。

[日程] 4月2日～7月3日

[会場] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

九州・沖縄

●福岡県那珂川市

那珂川市教育文化振興財団
〒811-1253 那珂川市仲2-5-1
Tel. 092-954-2211 朝長尚平
<https://www.mirika.or.jp/>

文化ホールリニューアルOPEN 記念 ミリカスプリングコンサ ート2022～希望の春、躍動が始 まる～

令和3年度から4年間かけて全館改修中のミリカローデン那珂川で、文化ホールのリニューアルが完了したことを記念して開催するコンサート。那珂川吹奏楽団や那珂川市少年少女合唱団、パンプオーケストラ那珂川など地元の音楽団体と福岡を中心に活躍するプロの演奏家がコラボレーション。子どもから大人まで楽しめる「春らしく、気持ちが前向きになるプログラム」を新しい舞台で披露。幅広い音楽ジャンルの演奏で、「新しいミリカの幕開け」を彩る。

[日程] 4月10日

[会場] ミリカローデン那珂川

●長崎県長崎市

長崎県美術館
〒850-0862 長崎市出島町2-1
Tel. 095-833-2110 稲葉・松久保
<http://www.nagasaki-museum.jp/>

テクテクテクネー：技法でひら く想像世界

制作の過程や方法に焦点を当

て、一つひとつの作品を形づくる表現の特質に迫る。長崎県美術館のコレクションを軸に、九州圏内の美術館やアーティストの所蔵作を織り交ぜ、絵画や彫刻など多様なジャンルの作品を「顔」「音」などのテーマに沿って紹介。小学3～6年生を対象に、展示室に潜む「なぜ?」「どうやって?」をエディューケーターと一緒に探す「あつまれ! テクテク調査隊!」(5月21日)も開催。

[日程] 4月9日～6月5日

[会場] 長崎県美術館

オンラインを活用 した取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、各地で広がるオンラインを活用した取り組みをご紹介します。

●東京都大田区

OTAアート・プロジェクト 馬込文士村 空想演劇祭2021

大正末期から昭和初期にかけて多くの作家や芸術家が暮らし、交流を深めた東京府馬込村(現在の大田区)の「馬込文士村」にゆかりの作家の作品を、演劇やダンスで表現する配信型映像演劇企画。当初は2020年の上演を目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため映像作品の制作に切り替え、日本初の映像演劇祭として再スタートした。アートディレクターは劇団山の手事情社の安田雅弘が務め、撮影はすべて大田区内で行われている。

[配信期間] 2月25日～4月25日

[URL] <https://www.ota-bunka.or.jp/magome-engekisai/>

[問い合わせ] 大田区文化振興協会 Tel. 03-3750-1611

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp

●宮城県利府町

利府町文化交流センター 「リフノス」

〒981-0103 宮城郡利府町森郷字新権の木前31-1
Tel. 022-353-6114
<https://rifunosu.jp>

◎2021年7月1日オープン



芸術・文化・生涯学習活動の拠点施設として開館した複合施設。施設名の「リフノス」は鳥の巣のように多くの人が集まり育つ場所にするとの願いが込められた。

コンサートや演劇、講演会など用途に合わせた利用が可能な移動観覧席431席の多目的ホールを有する文化会館と、蔵書数9万冊で、施設内に読み聞かせスペースを備える図書館、ドラムなどの楽器が常設されている防音のスタジオや研修室、ッキングスタジオなど計10室を備える公民館、カフェレストランで構成されている。

今後は文化芸術活動や生涯学習活動などを通じて、人との絆、地域との絆を強化するとともに、将来の環境変化に強い人材を育成し、豊かな町民の暮らしや町の活力を一層育んでいく。

[オープニング事業]開館式典&開館記念トークショー

[施設概要]文化会館(431席)、図書館、公民館(スタジオ、ッキングスタジオ、研修室ほか)

[設置者]利府町

[管理・運営者]利府みらいクリエイティブ

[設計者](株)佐藤総合計画東北オフィス

●滋賀県大津市

滋賀県立美術館

〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1740-1
Tel. 077-543-2111
<https://www.shigamuseum.jp/>

◎2021年6月27日リニューアルオープン



撮影:大竹央祐

老朽化した美術館を改修し、館名から「近代」を外してオープン。「リビングルームのような美術館」を目指して、エントランスロビーおよびその周辺を美術館と来場者の出会いや交流の場となる「ウェルカムゾーン」と位置づけ、統一的なコンセプトでデザインされた空間として整備。キッズスペースや、ワークショップや打ち合わせなどに使用できるラボ、カフェスペースも新たに設けた。リニューアルに際して、「創造(Creation)と問いかけ(Ask)」「地域(Local)と学び(Learning)」をミッションとして掲げた。2016年からアールブリュットを作品収集方針の柱に加え、障がいのある人やジェンダーを問わず創造の場を支えるとともに、滋賀県内の多様な魅力をリサーチして発信するなど、社会に開かれた柔軟な運営を展開する。

[オープニング事業]企画展「Soft Territory かかわりのあわい」ほか

[施設概要]展示室3室(合計1,765m²)、ギャラリー(478m²)、キッズスペース、ファミリールーム、ラボ、ショップ、カフェ

[設置者]滋賀県

[管理・運営者]滋賀県

[内装設計者]graf(ウェルカムゾーンのみ)

●大阪府箕面市

箕面市立文化芸能劇場

〒562-0035 箕面市船場東3-10-1
Tel. 072-726-3000
<https://minoh-geino.jp/>

◎2021年8月1日オープン



グリーンホール(市民会館)の老朽化により、北大阪急行線の延伸に伴い新設される箕面船場阪大前駅前に移転建て替えし、市の芸術文化活動を支える総合的な中核拠点施設として開館。施設の運営者をあらかじめ選定する、箕面市独自のPFI方式が採用された。

館内は、市民に芸術文化鑑賞の機会を提供する大ホールと、市民が生涯学習活動への参加の場として活用する小ホールで構成。外観および小ホール内の特徴的な網目のデザインは、箕面船場地域を象徴する「繊維」と、箕面の地名の由来である農具の「箕」をモチーフに、また大ホール内は箕面大滝をモチーフとしてデザインされている。

2023年度予定の箕面船場阪大前駅開業後は、「日本全国から人々が集う」劇場として地域交流の活性化に繋げていくことで、まちの賑わい創出を目指す。

[オープニング事業]オープニングイベントin文化芸能劇場

[施設概要]大ホール(1,401席)、小ホール(300席)、リハーサル室(218.08m²)、楽屋・スタッフルーム(12室)

[設置者]箕面市

[管理・運営者]PFI箕面船場まちづくり株式会社

[設計者]大林組・久米設計

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

愛知県豊橋市

穂の国とよはし芸術劇場
PLAT

市民と創造する
演劇『階層』
～チェルフィッチュの〈映像演劇〉の手法による～



撮影：伊藤華織

●市民と創造する演劇『階層』～チェルフィッチュの〈映像演劇〉の手法による～
[主催]豊橋市、公益財団法人豊橋文化振興財団
[会期]2022年3月3日～6日(全25回公演)
[会場]穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール
[作・演出]岡田利規
[映像]山田晋平

*1 市民と創造する演劇
「高校生と創る演劇」と並ぶPLATの主催事業。2014年度の市民と創るスケッチ群像劇「話しグルマ」を皮切りに、近藤芳正、扇田拓也、糸井幸之介、橋本昭博、吉田小夏、桑原裕子らとシェイクスピアから創作劇まで7舞台を発表。出演者のほかに広報などの市民スタッフも公募。

*2 映像演劇
岡田利規(作・演出)と山田晋平(映像)が名付けた新しい上演形態の作品。さいたまトリエンナーレ2016で区役所の使われなくなった厨房と食堂で発表したのがスタート。予め撮影された俳優のほぼ等身大の映像をパネルに投影し、観客はその映像と対峙する形で鑑賞する。これまでに「渚・険・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉」(2018年/熊本市現代美術館)、「風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事」(2020年/札幌文化芸術交流センター SCARTS)を発表。「風景…」は2021年5月にPLATアトスペースでも開催。

穂の国とよはし芸術劇場PLATは開館2年目から公募による市民出演者とプロのスタッフが共同して作品をつくり上げる「市民と創造する演劇」(*1)を制作している。演出家は毎年入れ替え、8作目となる今回はチェルフィッチュ主宰の岡田利規と豊橋市在住の舞台映像作家・山田晋平による新作『階層』が上演された。「〈映像演劇〉(*2)の手法による」という副題が付いた異色の市民劇を取材した。

メインステージは主ホールの舞台上で、観客は限定17名の入れ替え制(上演時間約70分)。ロビーで待機していた観客は、案内人に誘導されてホール客席へと移動する。幕が上がると、舞台上には奈落を覗き込んでいる別の観客たちがいて、どこからか声が漏れてくる。幕が下がり、再び幕が上がると、観客は舞台上へと案内され、先ほどの観客と入れ替わりに、幅13メートルの横長の穴から奈落の底に設置された7枚の巨大パネルに映し出された映像演劇を覗き見る――。

観客が観客を見たり、舞台が奈落の底だったり、物語や役はなく奈落という永遠の階層に行った人々が哲学談義をするようなテキストだったり、リアルな俳優によるものではなくおぼろげな虚像(映像)の俳優が見えない観客に向かって演じていたり、幾重にもフィクションを重ねられ、劇中劇構造を利用した実験的なメタシアターになっていた。

担当の大橋玲さんは、「本事業では演出家を外部から招いて新たな出会いと交流をつくり、演劇にはさまざまな形態や、多様な作り方があることを知ってもらうのを目的として実施しています」と話す。コロナ禍での取り組みを模索するなか、山田が市民劇の1回目に関わっていたことから、映像演劇の可能性について打診。「演劇をよく知る人たちにも評価してもらえる機会になるだろうから、劇場で映像演劇を発表することに興味があった。新しい形式の演劇を面白いと思える観客が、豊橋には確実に育っている」と感じていた山田は、岡田と相談しながら、初めて劇場という空間で映像演劇を

展開するための構想について検討していった。

まず、2021年5月に開催した映像演劇(左欄参照)に合わせて、山田による〈映像演劇〉が体験できるワークショップを実施。7月のオーディションで県内外合わせて14名の出演者を決定。22年1月上旬に出演兼演出補の米川幸リオンが2日間のワークショップで下準備を整えた。2月1日から稽古が始まったが、そのほとんどは岡田のテキストをひたすら読むことに費やされたという。また、リハーサル室にはカメラとパネル2枚が設置され、奈落の上から覗いたような画角やどう動けば面白いかなどを実験。劇場入りしてからは、出演者は目の前にいない観客を想像しながらパフォーマンスを行い、岡田は映像を見ながら演出。公演では2月27日に行われた本撮影での映像が上映された。

岡田は、「自分の役柄を破綻無く演じられるかどうかはプロの俳優にとって重要な基準だが、今回はそれよりも観客がこの作品を見て演劇だと思えるかどうかという基準を重視した。映像演劇を前提に書かれたテキストを読み、想像し、その想像の上に言葉を乗せて演技を形づくっていった。そういう演劇の原理を追求したクリエイションを行った」と話す。

出演した市民たちは、「岡田さんが考える演劇の面白さを知る機会は二度とないと思って応募した。テキストを読んで、今、何をイメージしているかを聞かれて、コメントをもらって、また読む。こうしろと言われたことは一度もなかったし、何が正解なのか今でもわからない。こういう演劇があるということを周りの演劇人にも伝えていきたい」(江上定子)、「リハーサルではテキストを繰り返し読むことで、どうすればお客さんに能動的に見てもらえるかを考えた。新しい頭の使い方を覚えた」(富高有紗)など、新鮮な演劇体験を言葉にしていた。

「私は共感できなかったけど、こういう演劇があってもいいと思った」と、観劇した市民が話していたのだが、こういう取り組みの丁寧な積み重ねが舞台芸術表現の広がりを生んでいくのだと感じた。(横堀広彦)